



ユニセフ募金始まる

今週からユニセフ募金が始まります。今日27日(月)~31日(金)まで、各学年の廊下で生活委員会が中心となって募金を呼び掛けてくれています。

ところで、この「ユニセフ」ですが、厳しい状況にある子供たちを、約190の国と地域で支援しています。今、世界では助けを必要としているたくさんの子供たちがいます。このため、ユニセフでは、5歳よりも前に命を失う子供の割合や、国民一人当たりの所得、18歳未満の子供の数などを目安に、どこから支援していくかを決めています。また、日本を含む33の先進国・地域に置かれたユニセフ協会は、国際連合の機関であるユニセフ本部の公式窓口として、募金や広報の他、子どもの権利条約の普及活動に取り組んでいます。



日本でも1949年から東京オリンピックが開催された1964年までの15年間、ユニセフからの支援を受けていました。第二次世界大戦後に、食べ物や着る物に困っていた子供たちのために給食用の脱脂粉乳、薬、原綿(綿:服の原料)などが送られたのです。金額にすると当時のお金で65億円にも上るそうです。当時の脱脂粉乳は「ユニセフミルク」とも呼ばれ、子供たちの貴重な栄養源となっていました。

今回のユニセフ募金で、少しでも世界の子供たちの役に立つ浄財が集まることを願っています。

ハルシネーションに気をつけましょう

最近よく耳にする言葉が「ハルシネーション(Hallucination)」です。これは、生成AI(人工知能)に関係する言葉です。AIは、最近では驚くべき進化を遂げています。「〇〇って何?」と尋ねると、間髪開けずに答えてくれます。以前は、イントネーションが違っていたり、文脈の切れ目がおかしかったりと、たどたどしい日本語に聞こえました。しかし最近のAIは、滑らかな日本語で答えてくれます。この生成AIですが、質問に答えてくれるばかりか、「公園でりんごをかじっている少年のイラストを描いて。」と注文すれば、たちまち完成してくれます。このように文章や絵、音楽なども作る(生成)するので「生成AI」と呼ばれているのです。

ところが、この生成AIの答えは、必ずしもいつも同じとは限らないのです。私も生成AIに自分自身のことを尋ねてみましたが、概ね合致する所もありましたが、間違っている所もありました。このように事実とは異なる回答をAIは、もっともらしく創り出すのです。このように、もっともらしい誤情報(=事実とは異なる内容や、文脈と無関係な内容)を生成することを「ハルシネーション」というのです。英語で「幻覚」という意味です。生成AIは、進化を遂げながら私たちの暮らしの中に溶け込み、一般化してきました。一方で、生成AIはハルシネーションを生み出すこともあると気を付け、上手に活用していくことも必要です。

